工事災害防止に向けた優良事例集

熱中症対策編(令和7年4月)

東京都工事安全連絡会



「朝礼時、作業中、作業後に確認していますか」

▶ 熱中症予防対策(体調確認チェックシートの活用)

✓ 日々のKYミーティング等において、元請会社職員及び職長が作業員の体調について1日3回直接聞き取り、 体調確認チェックシートに記録することで、コミュニケーションを十分に取りながら熱中症予防に向けた体調管理 の充実を図っている。



1日3回、聞取りを実施

朝礼時:7項目

(年齢、熱中症の経験、体調、睡眠、

深酒、朝食、水分補給)

午後開始時:3項目

(体調、昼食、水分補給)

作業終了時:2項目

(体調、水分補給)

技能実習生などの外国人作業員に対して熱中症対策を伝えるため、多言語による注意喚起を実施している。



「外国人作業員に向けた多言語による注意喚起」

厚生労働省 熱中症関連リンク集(https://neccyusho.mhlw.go.jp/link/)

「みんなで防ごう!熱中症」多言語リーフレット(PDF) 日本語、英語、インドネシア語、クメール語(カンボジア語)、モンゴル語、ミャンマー語、ネパール語、 タガログ語、タイ語、ベトナム語、中国語(簡体字)

(建設局)

路上工事の現場内で持ち運び可能な形態でWBGT値を見える化し、熱中症に対する意識向上を図っている。



【現場での使用イメージ】



【WBGT計(暑さ指数)】



【塩分·水分補給常備品】

「身に付けると、いいですか」

受注者が下請会社を含め全現場作業員に腕時計型の熱中症警報器を配布し熱中症の予防を実施している。



____ 熱中症警報器着用

(建設局)

▶ ウェアラブルIoTサービスを用いた夏場作業の熱中症対策

ウェアラブルloTサービスを導入し、夏場現場作業での社員の健康状態を定量的かつリアルタイムに監督者が 管理し注意を促すことで、夏場の熱中症対策、社員の体調管理を強化している。

ウェアラブルデバイス装着状況



健康状態の監視状況





✓ 作業員の熱中症防止対策のため、日よけハットを着用している。





日よけハットの着用。

(都市整備局:住宅政策本部)

作業場所が高温多湿となることから、各作業員に清涼ファンを取付け、作業環境を改善するなど熱中症対策 を実施している。







✓ 現場責任者が熱中症対策警報機を携帯し測定することで、警報機能による熱中症の予防を実施している。



- 覆工板下など高温多湿の工事現場では、作業員等に電動ファンのついた空調服を着用させるなど体を冷却 する対策をとっている。
- ✓ 新たな試みとして、作業員のシャツに検知器を取り付けて体調変化や転倒などの状態を検知し、管理者のパ ソコンや作業員のスマートフォンに通知してリスクの見える化を行い、危険時にアラートを鳴動させるウェアラブル loTを一部の現場で採用している。



空調服



(交通局)

「休憩するところは、涼しいですか」



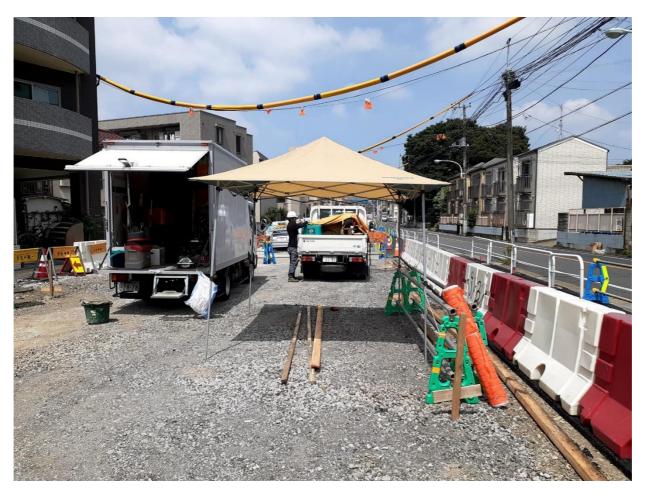
熱中症対策として、冷水器・製氷機・かき氷機・塩飴・シャワー室など多様な対策グッズを用意して、個人の症 状や休憩時間に合わせて利用しやすいようにしている。





(交通局)

- ✓ 日陰がない現場において、仮設テントを設置して日陰をつくり、作業員の一時的な小休止の場として活用している。
- ✓ 仮設テントは、作業箇所が変わることに合わせて、容易に移動することができる。



【仮設テント設置状況】

(都市整備局:住宅政策本部)

- ✓ WBGTの予測値及び計測値を作業員の見やすい場所に掲示し、定期的な休憩を促すなど、熱中症に対する 注意喚起を行っている。
- ✓ 熱中症対策用に現場内に休憩所を設置している。すだれにより日射を遮っている。





(建設局)

- ✓ 当日のWBGT値を測定・見える化し、全作業員へ周知することで熱中症対策に対する意識向上を図っている。
- ✓ 現場内にエアコン付きの休憩所を設置するとともに、作業箇所に隣接してテントを設置し、作業の合間に日陰で休めるようにしている。







(建設局)

- ✓ 日陰の少ない路上工事現場における猛暑対策として、作業員が頻繁に休憩が取れるようにソーラパネルを搭載した 移動式休憩所を設置
- ✓ 休憩所内のエアコンは、ソーラーパネルから供給される電力で稼働させており、作業員は涼しい環境で休憩可能
- ✓ 同じく冷蔵庫も、ソーラーパネルから供給される電力で稼働し、冷たい飲料等も用意可能



発電量と電気使用量がわかるモニター

蓄電池に蓄えた電力で夜間も使用可能





トラックの荷台にソーラーパネル付ハウスを積載

(都市整備局:住宅政策本部)

「冷却設備は、いかがですか」

暑さ指数(WBGT)を自動測定し、設定値を超えると、ノズルから水道水を霧状(数十ミクロン)に空中散布する。 散布したミストが気化する際の気化熱を利用して周辺温度を下げることで、熱中症を予防している。



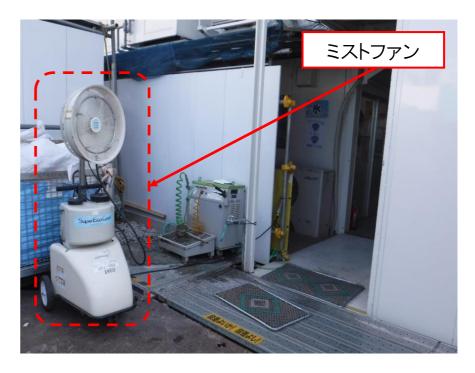
システム概要



ミストノズル 設定された気温等になるとミスト噴霧します。 <u>(任意に設定できます)</u>

✓ 熱中症対策として、ミストシャワー・ミストファンを設置している。





- WBGT値を自動計測し、かつインターネットにて閲覧可能にするとともに、注意旗・電光板で周知し、注意喚起 している。
- また、WBGT値32°C以上は、「危険Ⅱ」とし、空調服使用を義務化している。
- 細目な水分補給を促すため、廉価な熱中症対策飲料を提供している。

インターネットによる管理



廉価な熱中症対策飲料



注意喚起



※危険2で空調服使用の義務化

> 工事現場の天候変化等の状況把握(熱中症·防犯対策含む)

- ✓ 工事現場に、風速・温湿度・人感センサーを設置することで、天候の変化や熱中症対策、休工事時等における侵入者の把握に努めている。
- ✓ スマートフォンなどによりリアルタイムの検知状況を把握することができる。



